

## 県内各地域の農業・農業者の動向報告（8月）

農産園芸課生産指導係

### ○気軽に相談、一日営農相談会を開催

JAうまと農業指導班は7月11日から4日間、管内13会場で一日営農相談会を開催し、生産者延べ113人が出席した。営農相談会は、生産者が作物の生産管理など気軽に相談できるように毎年実施している。

当日は、指導班及びJAうまの担当者が地域特産のさといもややまのいも、水稻、かんきつの栽培管理について説明し、生産者との意見交換を行った。

参加した生産者からは、さといもの疫病やハダニ類の防除対策に関する質問が多くあり、指導班から疫病対策には発生前の予防散布と台風・長雨後の応急防除の徹底、ハダニ類には葉裏にも丁寧に薬剤散布するよう指導した。

なお、さといもの生育は、4月以降平年よりも平均気温が高く推移しているため前進傾向である。  
(四国中央農業指導班)



### ○農作業事故ゼロを目指して、新規就農者が学ぶ！！

地域農業室は7月21日、宇和島市内の農機会社で農作業事故防止・安全確保の推進を目的とした農作業安全講習会を開催し、就農して間もないかんきつ農家8人が参加した。

当日は、地域農業室が農作業事故の防止対策と地域の安全啓発について説明した後、農機メーカーの講師がモノレールやチェーンソーを実際に整備しながら、安全な使用方法や保守管理についての講義と実習を行った。

参加者らは、「かんきつ栽培は急峻な傾斜地での農作業が多く、様々な危険性をはらんでいる。自分はもちろんのこと、地域全体でも農作業事故に対する危機意識を持ちたい」と話し、地域ぐるみで安全啓発に取り組む姿勢を感じた。



モノレールの整備指導

(南予地方局産業振興課 地域農業室)

### ○「ジオの味作り」に向け、技術交換を実施！

西予生活研究協議会(会長：大塚英子)は7月21日(金)、西予市教育保健センターで農山漁村女性リーダー研修会を開催し、西予地域ならではの「ジオの味作り」に向けた技術交換を行った。

これは、旬の食材を使った料理方法について理解を深めると共に、食農教育に関わるリーダーとしての資質の向上を図ることがねらい。

当日は、同協議会役員や所属する各町連のリーダーらが、夏野菜を用いた3品(餞暑瓜(せんしょうり)スープ、翡翠(ひすい)茄子、ラタトゥイユ)とバラ寿司のほか、明浜柑橘お菓子づくりプロジェクトで明浜町青年農業者が開発したみかんわらびもちやレモンカードを調理し、試食後に意見交換した。



特に、大きくなり過ぎたきゅうりを使った餞暑瓜スープは、その美味しさとこれまでにない利用方法で、多くの参加者から驚きの声が上がっていた。

西予農業指導班は今後も充実した組織活動になるよう、農山漁村の女性の活動支援に取り組む。  
(西予農業指導班)

### ○西予市大野ヶ原で“ランチ提供”始まる！！

西予市野村町大野ヶ原で酪農を営む佐伯美津子氏は7月23日、四国西予ジオパークの魅力を満喫してもらおうと農家直売所「森の魚」をリニューアルし、昼食メニューを提供する“お山のレストラン森の魚”をオープンした。

観光客の「大野ヶ原に来て食事する場所がない」との声が、営業を始めるきっかけ。おすすめメニューは、絞りたて牛乳と自家製ソフトクリームが付いた森の魚ランチで、自慢の手作り料理が楽しめる。また、佐伯さんは、ジオパークの見どころについても情報発信したいと張り切っている。営業は、雪の心配のない3月のお彼岸頃から12月まで。

今後は、地域の食材を活かした魅力あるメニュー開発や消費者との交流活動に取り組もうと意欲的で、西予農業指導班では、地域活性化の核となる施設となるよう活動支援に取り組む。



(西予農業指導班)

### ○丹原発「土のめぐみ」夏便の発送を開始

西条市生活研究協議会丹原支部(松木明子支部長他20人)は7月25日、西条市丹原町農村環境改善センターで、地元農産物や加工品を小包で送る「土のめぐみ」夏便の梱包・発送作業を実施した。同支部では、「土のめぐみ」を「夏便、冬便」として年2回実施している。今年で18回目となり好評を得ている夏便は、キュウリなど会員が作った夏野菜や加工品など12点を梱包し、197箱の発送を実施した。

梱包・発送作業の後、12月の冬便発送に向け会員同士で意見交換を行ったところ、「品目の見栄えの良い入れ方の工夫が必要」「荷傷みを防ぐため、クッションを入れてはどうか」など、より良いものを作るため熱心な話し合いが行われた。



(東予地方局産業振興課 地域農業室)

## ○西条・四国中央の農業女子が「東讃地域農ガール」と交流

地域農業室は7月25日、第2回女性農業者経営参画支援講座を開催し、西条市と四国中央市の若手女性農業者等10人が参加した。

当講座は、若手女性農業者が農業へ主体的に参画するための知識・技術の習得とネットワークづくりを目的に開催し、年間8回の講座を予定している。

今回は、香川県の「東讃地域農ガール」と交流したほか、金江養鶏場の農家レストラン「かなたまキッチン」やマンゴー生産からその6次産業化に取り組む「株式会社annfarm」で研修を行った。

東讃地域農ガールからは、高校生との女性用つなぎ共同開発やJAを通じた大阪市場への出荷など農業の魅力を発信するプロジェクト活動の紹介があった。

また、かなたまキッチンと株式会社annfarmでは、6次産業化を始めた目的や販路拡大の方法について研修した。

参加者は、「時にはくじけそうになる時もある。だけど、仲間がいることで何倍ものパワーにかわる」という東讃地域農ガールのメッセージに共感し、交流を深めていた。また、販促に関心のある受講生で組織する「たべとうみん」のメンバーは、ホテルやスーパー等とのコラボ活動に益々意欲を高めた。



東讃地域農ガールと記念撮影



かなたまキッチン



annfarmのマンゴーハウス

**東讃地域農ガール**：香川県東讃地域の農業女子8人で今年1月に結成した組織。農産物の販売や消費者との交流を通して農業の魅力を発信すること、他産業とのコラボにより農業の未来を考えることを目的として活動している。

**たべとうみん**：農山漁村男女共同参画強化事業の受講生のうち自家生産物の販促に関心のあるメンバー11人で平成27年に結成した組織。販売活動を通じて農業・農村・農産物の魅力発信を目的に活動しており、マルシェへの参加やホテルへの食材提供を行っている。

(東予地方局産業振興課 地域農業室、四国中央農業指導班)

## ○新規就農者のかんきつ摘果技術向上を目指して

今治支局地域農業室しまなみ指導班と産地育成室技術普及グループは7月26日、岩城実証圃場で上島町の新規就農者ら4人を対象に柑橘栽培の技術習得研修を行った。

今回の研修では、8月の重要な栽培管理として、あら摘果の見直しと仕上げ摘果の注意点、枝別摘果等について学んだ。

参加者らは、あら摘果をした同実証圃場の樹と自分の圃場の樹を比較し、「自分の圃場の摘果はまだまだ」「これから、まだたくさん摘果しないといけない」と話していた。また、夏枝の処理方法やレモンの整枝についての質問もあり、有意義な研修となった。

両室は、関係機関と連携しながら、就農希望者や新規就農者等が栽培技術を早期に習得できるよう、実証圃場を活用した担い手支援に取り組む。



はるみの枝別摘果を学ぶ



たまみの仕上げ摘果を実習

(今治支局 産地育成室・しまなみ農業指導班)

### ○松山市の認定農業者が愛南町で施設野菜の大規模経営を学ぶ！

松山市認定農業者協議会野菜研究部会の部会員9人は7月26日、有限会社河野園芸において、施設野菜（小松菜、青ネギ）の栽培技術や労務管理など大規模経営における経営手法を学んだ。

参加者は、法人の代表者から小松菜の周年栽培における夏場の管理や機械化された出荷調整作業などについて説明を受け、相次ぐ質問のなかで自らの経営のヒントをつかむきっかけになるなど有意義な研修となった。

また、参加者は、同法人が地域住民の雇用や農地の受入など、地域とのつながりを大切にしながら経営展開している点にも関心を寄せており、地域農業室では、部会員の経営の安定発展に向け、引き続き当協議会活動を支援する。



小松菜の栽培ハウス



青ネギの育苗ハウス

松山市認定農業者協議会：松山市の認定農業者からなる任意組織（横林徳幸会長、会員292人（平成29年5月末現在））。3つの研究部会（果樹・野菜・花き）に分かれ、先進地視察研修等、会員の経営改善に向けた活動を行っている。

有限会社河野園芸：南宇和郡愛南町において、施設野菜（青ネギ、小松菜等）と果樹（河内晩柑）の複合経営を行う農地所有適格法人。代表：河野俊 従業員：常時雇用6人、パート22人（中予地方局産業振興課 地域農業室）

### ○新規就農者が先輩の経営に学ぶ！

八幡浜支局地域農業室は7月26日、八幡浜市神山のかんきつ園で新規就農者や青年就農給付金受給者等を対象にしたシトラス講座（第2回）を開催し、22人が参加した。

当日は、かんきつの摘果講習と優良園地の視察を行い、摘果講習では産地育成室の担当者が基本的な摘果の方法や隔年結果の防止方法について説明した後、実際に温州みかんや甘平、不知火の摘果を行った。

また、優良園地の視察では、機械化体系に合わせた園地づくりをしている園地を視察し、園内道の整備やスピードスプレーヤー等の機械導入による作業の省力化やコスト削減について学んだ。

参加者からは「効率的な摘果の方法を知ることができた」「自分の園地でも機械導入や園内道の整備を検討してみたい」といった意見があり、大変有意義な講座となった。

地域農業室は今後もこの講座を通して、関係機関と連携しながら新規就農者の育成を支援する。



摘果講習会の様子



優良園地視察の様子

(八幡浜支局 地域農業室)

### ○生活研究協議会員が郷土料理「さつま」を研究

鬼北地区生活研究協議会(高田ミサ子会長、会員47人)は7月27日、日吉保健センターで「郷土料理研究会」を開催し、同会員及び関係機関職員合わせて24人が出席した。

これは、魚と味噌を使った南予の郷土料理「さつま(冷や汁)」とそれに合うおかずなどを作り比べ、地域の味を伝承していくために開催したもの。

当日は、さつま3種類(いりこ、鯛の干物、イダ(ウグイ))と煮物、酢の物・デザート各2種類を作り、食べ比べをした。

参加者は、「地域によって特色のあるさつまの食べ比べができ、良かった。他地域のさつまも家で作ってみたい」と話していた。

(鬼北農業指導班)



### ○開発商品のPOPに高校生のアイデア光る

大洲市長浜町豊茂地区の豊茂自治会地域づくり部会豊茂加工班(藤淵良子班長)は8月1日、豊茂公民館で「第3回大洲農高生と豊茂自治会による6次産業化開発プロジェクト」を同班員6人と大洲農業高校食品デザイン科3年生6人が参加して実施した。

これは、6次産業化に取り組んでいる両者が連携し、地域特産物を使った新たな加工品開発を行うことを目的としており、昨年度から実施している。

今回は、昨年度開発したジュレの原材料となる赤しその収穫体験と商品の販売方法を検討。収穫体験で高校生らは、班員に指導を受けながら、慣れない手つきで刈り取り、その後葉を摘み取る作業も体験した。

また、販売方法の検討では、愛媛6次産業化サポートセンターの畠中均氏から「商品コンセプトが重要」とのアドバイスを受けるとともに、高校生から商品パッケージやPOP案の報告があった。班員はカラフルな色遣いで描かれたPOPに大満足で、試験販売時から活用することとなった。

商品パッケージのデザインは、今回の案を再度検討したうえで決定する予定。



みんなで収穫した赤しそ



高校生のアイデアを聞く班員ら

(大洲農業指導班)

### ○次代につなぐ「食」と「農」 ～生活研究協議会の食育活動～

西条市生活研究協議会東予支部（野口紀美江支部長、会員8人）は8月1日、西条市壬生川公民館で食文化普及講座を開催し、壬生川小学生16人が参加した。

当講座は、生活研究グループ員が小学生を対象に郷土料理や農作物への理解を深めることを目的に開催している。

今回は、協議会員が、事前に地元農産物を使った副菜料理等を調理し、それを使って子どもたちがそれぞれアレンジした弁当を作った。

試食後は、グループ員が食事の大事さや地元産の旬の野菜等を活用した食材を食べることの大切さを伝えた。子どもたちからは「美味しかった。家で作ってみたい」などの意見が出るなど、食と農に対する理解を次代につなぐことができ、子供たちの楽しい夏休み行事の1つとなった。



(東予地方局産業振興課 地域農業室)

### ○愛南町で「コシヒカリ」の刈取りを開始！

愛南町で水稲早期「コシヒカリ」の刈取りが8月1日から始まった。これは昨年と同時期の刈取り始め。

刈取りは、同町の水田数か所で始まり、刈取り適期を迎えた「コシヒカリ」をオペレーターが手際よく刈り取っていった。収穫した新米はJAに出荷するほか、盆前には地元産直市の店頭にも並ぶ。

生産者からは「今年は生育初期には平年と比べやや遅れ気味だったが、梅雨明け前後からの好天で例年とそん色ない出来栄え」との声が出ていた。

同町では、水稲栽培410haのうち260haが早期栽培の「コシヒカリ」。今後は町内全域でコシヒカリの刈取りが日増しに進み、10月の普通期水稲まで続く。

指導班では、水稲の適期刈取指導をはじめ、水稲跡のブロッコリーなど野菜類の作付けを指導し、農家所得の拡大を支援する。

(愛南農業指導班)



## ○天敵利用によるキュウリ黄化えそ病対策について学ぶ！

JA おちいまばりきゅうり部会は8月2日、今治市中寺のほ場でキュウリ黄化えそ病対策の講習会を開催し、生産者等17人が参加した。

キュウリ黄化えそ病は、ミナミキイロアザミウマが媒介して甚大な被害をもたらすが、害虫の薬剤抵抗性が発達し、化学農薬の殺虫効果が低下している。

講習会では、産地育成室が、その対策として市販されている天敵保護装置（バンカーシート）と土着天敵（タバコカスミカメ）を用いた防除体系について説明。

天敵を観察した参加者らは、「天敵が定着すれば防除効果が高く、省力化にもなるので天敵導入を検討したい」と前向きに話していた。

産地育成室は、安定生産技術の確立に向け、天敵等を利用した環境に優しい防除体系の確立を目指す。



バンカーシート



天敵の定着状況を観察

バンカーシート：パックに入った天敵スワルスキーカブリダニをシートで包み込みこんでいるため、天敵が長期間保護・増殖できる。

タバコカスミカメ：雑食性のカスミカメムシ。アザミウマ類やコナジラミ類等の微小昆虫を捕食する。

(今治支局 産地育成室)

## ○花木の高品質生産を目指して

JAおちいまばりは8月2日から10日まで、産地化に取り組んでいる花木(ビブルナム・ティナス&ピットスポラム等)の高品質や安定生産・出荷を目指す講習会を管内7会場で開催し、新規出荷予定者を含む51人が出席した。

これは、現在の出荷者34人が今年末には50人程度に増加することから、市場に信頼される花木の産地確立に向け、生産者の生産・出荷技術向上を目的に開催したもの。今回は、鮮度保持技術の導入をテーマに、JAから鮮度保持の手順について説明があった。

また、産地育成室から優良圃場において効率的な株の仕立て方や栽培管理等について指導した。参加者からは、枝の切り位置や出荷方法、鮮度保持効果などについて質問があった。

産地育成室は、JAと連携しながら花木の高品質・安定生産技術の普及と安定出荷の支援に取り組む。



(今治支局 産地育成室)

## ○さといも「伊予美人」の安定生産に向けて

JAおちいまばりさといも部会(武田利郎部会長、35人)は8月4日、今治市朝倉地区のほ場で栽培講習会を開催し、生産者等24人が出席した。

講習会では、産地育成室担当者が灌水管理や近年問題となっている疫病対策について説明。

参加者は、灌水状況や害虫の発生状況を現地で確認し、管理作業の大切さを学んだ。

本年は、管内で13haのさといもを作付しており、晴天が続いたことから順調に生育している。

産地育成室は、今後も関係機関と連携し、さといもの安定生産の普及に努める。  
(今治支局 産地育成室)



### ○JA えひめ南が「干ばつ対策本部」を設置！

JA えひめ南は8月4日、JA、市、地方局担当者が出席して干ばつ対策会議を開催し、同日付で「えひめ南農協干ばつ対策本部」を設置した。

JA えひめ南管内の宇和島市では、7月19日の梅雨明け以降8月3日までに7.5mmの降雨しかなく、基幹作目のかんきつでは果実の肥大が抑制され始めており、今後の高温少雨による農作物全般への影響が心配されている。

会議では、作目への影響の状況や灌水の状況、南予用水の取水ができない園地での取水対応の他、干ばつ対策本部設置・運営や連携体制、台風5号の対策等について協議した。

産地育成室では、今後も農作物への影響の把握に努め、生産者に対し気象条件に応じた農作物の管理指導に努める。



干ばつ対策会議



干ばつ対策本部の設置

(南予地方局産業振興課 産地育成室)

### ○宇和島の青年農業者らが“Matsuno-cho 魅力満喫ツアー”で女性たちと交流！

宇和島市青年農業者連絡協議会は8月6日、松野町で「宇和島ふるさと体験交流会 “Matsuno-cho 魅力満喫ツアー”」を開催し、同協議会員12人と市内外から12人の若い女性が参加した。

これは、地域の様々な農業体験や農村体験を通して農業や自然への理解、参加者相互の親睦を深めることを目的に毎年開催しており、今回は松野町で実施。

当日は、おさかな館散策や飾り巻きずし調理体験、ブルーベリー&トマト狩り、採れたて野菜を使ったバーベキュー交流会等、盛り沢山の企画を通して、参加者らの交流を図った。



飾り巻きずし調理体験



バーベキュー交流会

(南予地方局産業振興課 地域農業室)



## ○鳥獣被害防止対策を先進地に学ぶ

今治支局地域農業室は8月8日、県内外の鳥獣被害防止対策について学ぼうと鳥獣害防止対策先進地研修を実施し、今治市大西町山之内集落やJAおちいまばりの生産部会の農業者と関係職員ら計19人が参加した。

これは、「鳥獣害を受けにくい集落づくり支援事業」の一環として実施したもので、同集落はモデル地区となっている。

当日は、平成28年度中国四国地域鳥獣被害対策優良活動表彰を受賞した広島県三原市の「農事組合法人むくなし」と今治市大三島町の「しまなみイノシシ活用隊」を視察し、その取り組みについて学んだ。

(農)むくなしの澤田博行代表からは「単に集落全体を柵で囲っても被害は減らなかった。正しい防護柵の設置方法を学んでから被害が減り、効率的に管理している。農業所得につながる取組みが大切」と助言があった。また、しまなみイノシシ活用隊の渡邊秀典代表からは、イノシシの捕獲から食肉への加工や販売に至るまでの取組み状況の説明があった。参加者らは「処理した肉は全て販売しているのか」「運営の上で一番大変なことは何か」と熱心に質問していた。

地域農業室では、山之内集落での鳥獣被害防止対策を推進するため、集落点検や技術研修などを開催する予定。



(農)むくなしの圃場で現地研修



渡邊代表から肉の加工処理方法を研修

(今治市支局 地域農業室)

## ○農山漁村で女性が活躍できる環境づくりを目指して！

中予地方局産業振興課地域農業室は8月18日、愛媛県生活文化センターで中予地区農山漁村男女共同参画フォーラムを開催した。

当日は、松山市内の農産物直売所「ぎんこい市場」で店長を務める向井京子氏と今治市の伯方島でグリーンツーリズムなどに取り組む県農業指導士の西部知香氏が、それぞれの経験に基づき女性が地域づくりに関わる魅力や課題などについて講演。

参加した農林漁業者や組織リーダーら41人は、女性が活躍するためには、配偶者や家族の協力が不可欠であることやマイペースで取り組むことが大事であるといったことなどを学んだ。

地域農業室では、今後とも研修会等を通して男女共同参画の意識啓発を行い、女性が活躍しやすい環境づくりに力を入れていく。



### 中予地区農山漁村男女共同参画フォーラム

(中予地方局産業振興課 地域農業室)

### ○松山地区の認定農業者が有害鳥獣の生態と対策を学ぶ！

松山地区農業経営者協議会は8月22日、愛媛県林業会館で鳥獣害対策をテーマに研究集会を開催し、会員の認定農業者ら27人が参加した。

これは、管内の興居島ではイノシシ、山間部ではサルの被害が新たに確認され始めたことなどから、会員に改めて適切な鳥獣害対策を徹底するとともに、最新情報を共有することを目的に開催したもの。当日は、県農産園芸課の担当者が「動画で見る有害鳥獣の生態と対策」と題し、鳥獣が農産物に被害を加える様子や捕獲方法などについて動画を交えながら対策のポイントを説明。

参加者からは、「イノシシは想像以上に警戒心が強く、捕獲が難しいことを改めて実感した」「猟友会任せではなく、自ら地域一体となって取り組む必要がある」といった感想があり、今後の鳥獣害対策を進めるうえで有意義な研修となった。

地域農業室では、引き続き、当協議会活動を通じて、認定農業者の経営安定・発展に向け支援する。



担当者の説明



研究集会の様子

松山地区農業経営者協議会（宮内一郎会長、会員381人（H29年3月末））：松山市及び東温市の認定農業者が組織する団体。会員の経営改善に向けた各種研修会等の実施を主な事業内容としている。

(中予地方局産業振興課 地域農業室)

### ○西予市で民宿「おめぐり庵」オープン！！

西予市宇和町でグリーンツーリズム活動に取り組んでいるグロス夫妻（夫：アメリカ出身、妻：西予市出身）は8月22日、古民家を改修した民宿「おめぐり庵」をオープンした。

夫妻は、農業体験の窓口や地元産の旬の食材を使った料理で消費者との交流を図ろうと、市と連携しながら活動しており、同日、市主催の“愛媛・西予市移住交流体験ツアー”も受け入れ、参加者との交流を深めた。また、海外からの旅行客も見込んでおり、「日本の農村の魅力を知ってほしい」「自分ならではのおもてなしをしたい」と楽しみにしている。

宿の受入れは1人から可能で、素泊まりや貸切りなどいろいろな楽しみ方ができる。さらに、夫妻は、地域の食材を活かした魅力あるメニュー研究や農家体験メニューづくりにも取り組みたいと意欲的である。

西予農業指導班では、地域交流の拠点施設となるよう活動支援に取り組む。  
(西予農業指導班)



天井を除き梁を見せる  
客室

### ○遠隔監視型捕獲システムでイノシシを群れごと捕獲！

大三島イノシシ活用隊(会長：渡邊秀典氏)は8月22日夜、今治市大三島町肥海地区に設置した大型囲いわなでイノシシ7頭を捕獲した。同隊では、ICTを利用した遠隔監視型捕獲システムを今年度から導入しており、同システムでの捕獲は今回が初めて。

かんきつの収穫期以降はエサの確保が難しく、イノシシは囲いわなに寄りつかなかったが、山に放棄したミニトマトに集まっていることを聞き、8月中旬からミニトマトをエサにしたところ、頻繁に囲いわなに入るようになった。

捕獲当日は、ライブカメラで群れの頭数を確認し、もっとも多い頭数が侵入したタイミングで罠を作動させ、一網打尽にした。捕獲したイノシシは、成獣(雄)が1頭で、残りはすべてウリ坊(子供)であった。母親と思われる成獣が雄だったため関係者一同驚いたが、有識者によると子供の誕生後しばらくは父親が世話をすることがあるとのこと。

今回の捕獲後も数日後には囲いわなに数頭が侵入しているため、引き続き群れごとの捕獲の期待が高まっている。

しまなみ農業指導班は、エサの確保等の情報提供を行い、今後も捕獲活動を支援する。  
(しまなみ農業指導班)



捕獲したイノシシ親子

### ○JA周桑里芋部会が講習会で収量増加を目指す！

JA周桑里芋部会(越智計敏部会長、106人)は8月22～23日、同JA管内4地区で生産者73人が参加し、栽培講習会を開催した。

同部会では、年々栽培意欲が高まっており、新規栽培者の加入により栽培面積も増加している。

講習会では、JAが生育後半から収穫期までの栽培管理について、試し掘りをした株を用いて、肥大促進に係る追肥や畝間灌水の必要性を重点的に指導した。また、産地育成室がさといも疫病の発生状況や防除対策について説明した。

参加者は「子いもや孫いもが太ってくるこの時期の水管理や肥培管理をしっかり行い、収量増加につなげたい」「台風の被害がなく安心したが、今後も疫病に注意して管理したい」と話した。

(東予地方局産業振興課 産地育成室)



### ○柑橘栽培の省力化をすすめる！

産地育成室岩城技術普及グループは8月23日、同室岩城駐在を訪れた明浜町青色申告会13人を対象に、実証圃場での成果紹介と「柑橘栽培の省力化技術導入や経営改善」について指導・助言した。

実証圃場では、レモンの間伐・縮伐や、徒長枝を誘引した低樹高化など省力化の取組み、甘平の高品質安定生産技術等のほか、施肥や灌水作業の省力化が期待できるマルドリシステムを紹介した。

参加者らは、「レモンがこんなに低くできたら作業が楽そうだ」「急傾斜地園では、どうしたら省力化できるか」などと、導入条件等について熱心に質問し、これからの柑橘経営について意見を交わした。

岩城実証グループは、今後も、実証展示・成果の内容を視察者に広く紹介し、技術の普及を図る。



レモンの低樹高化を指導



甘平のマルドリシステムの紹介

(今治支局 産地育成室)

### ○研修園に鳥獣被害防止対策の通電ネット柵を設置

今治支局地域農業室は8月23日、市内上浦町井口のJAおちいまばりかんきつ栽培研修園で、同園地の研修生3人と関係者16人が参加し、イノシシ等の侵入を防ぐ通電ネット柵を園地周囲約430mに設置した。

このネット柵は、「平成29年度鳥獣害防止新技術等実証展示事業」を活用して設置したもので、ネットの一部に通電する部分があり、イノシシやハクビシン等の侵入を総合的に防ぐ新技術として実証展示する。従来のワイヤーメッシュ柵より比較的簡単に着脱することが可能で、通常の栽培管理における作業性を確保しやすいことが特徴。

当日は、資材メーカーの担当者から効率的な設置方法を学び、2班に分かれて設置作業に取り組んだ。

今後、地域農業室では、イノシシやハクビシンの行動や被害状況を調査し、通電ネット柵の効果を検証する。



支柱立ての様子



ネット張りの様子

(今治支局 地域農業室)

### ○国体用ビクトリーブーケを試作

JAおちいまばり花卉部会（阿部馳夫部会長、95人）は8月23日、県立今治南高校日高農場で、部会員と高校生、関係者等20人が協力して、えひめ国体・えひめ大会今治会場の開会式場を飾る「リース」と表彰式で勝者に贈る「ビクトリーブーケ」を試作した。

これは、JAが産地化に取り組んでいる花木（ビブナム・テイナス、ピットスポラム）を国体・大会でPRするために実施したもので、今回は、高校生のアイデアを基に、市内花屋のアドバイスを受けて「リース」と「ビクトリーブーケ」を試作した。

なお、JA花卉部会と今治南高校生は、9月28日から、大会用リース等を順次作成・提供することとしている。

産地育成室はJAと連携しながら花木のPR活動と産地化の支援に取り組む。



高校生によるリースの試作



ラッピングの検討

（今治支局 産地育成室）

### ○集落リーダーが集落営農の組織化・法人化について学ぶ

周桑広域営農団地推進協議会担い手部会は8月24日、西条市丹原町のJA周桑営農管理研修センターにおいて「集落営農組織化・法人化研修(第1回)」を開催し、集落営農の組織化・法人化を目指す集落リーダーら21人が参加した。

研修では、農事組合法人「のきの郷」の山本耕一代表理事が、「ほ場整備を契機とした集落営農法人の誕生」と題して講演した。ほ場整備や地下水位制御システム（フォアス）、施設園芸の導入など今後の集落営農の進むべき道を示した内容に、参加者らの関心は高く、日頃の組織運営の疑問点など数多くの質問がでていた。

担い手部会では、集落営農組織の法人化等を進めるため、第2回を10月に予定している。



**周桑広域営農団地推進協議会担い手部会：周桑広域営農圏の農業を発展させるため、担い手育成を目的に今年度、県、西条市、農業委員会、JA周桑、JA東予園芸を構成員として設立した部会。**

（東予地方局産業振興課 地域農業室）

### ○新規就農者がグローバルGAPや改植による経営手法を学ぶ

八幡浜支局地域農業室は8月25日、新規就農者や農業次世代人材投資資金受給者等を対象にしたシトラス講座（第3回）を開催し、12人が参加した。

当日は、(株)ミヤモトオレンジガーデンの宮本泰邦代表が「安心安全な柑橘栽培を目指して」と題して、農業生産工程管理の世界標準であるグローバルGAP（以下G-GAP）の認証取

得に向けた取組みについて説明。同社は県内で初めてG-GAP 認証を取得した団体であり、その経緯やメリットの説明に受講者は熱心に耳を傾けた。

また、優良園地の視察では、改植によって軽労働力化と高品質安定生産を実現した園地で、効率的な改植の方法や改植による隔年結果防止効果を学んだ。

参加者から「まだ経営力は未熟だが、G-GAP 認証取得に向けて取り組みたい」「自分の園地でも老木が多いので改植し隔年結果を防ぎたい」といった意見があり、大変有意義な講座となった。

地域農業室は今後もこの講座を通して、産地育成室や各機関と連携しながら新規就農者の育成を支援する。



室内講習会の様子



優良園地視察の様子

(八幡浜支局 地域農業室)

### ○JA 西条ほうれん草部会が総会及び共励会で優秀農家を表彰！

JA西条ほうれん草部会（浮田佳雅部会長、18人）は8月25日、同JAあぐりセンターで会員及び市場関係者等27人が出席して、平成28年産の総会・共励会を開催した。

会では、優秀生産農家3人を表彰したほか、販売実績及び平成29年度の生産・販売方針について協議した。

平成28年度の栽培面積は、9月の長雨による影響で5.5ha（前年比97%）とやや減少したものの、その後の生育は順調で出荷量は約39 t（同131%）、販売額も増加（同116%）した。

平成29年度も引き続き産地拡大を図るため、共同機械利用による生産活動の効率化を推進し、作付面積の増加と気象変動に的確に対応した一層の高品質・安定生産に努めることとした。また、有利販売を目指し、予冷・氷詰め出荷による鮮度保持の徹底など販売促進に向けた取組みも強化することとしている。

産地育成室では、水田のフル活用を目指すため、水稻の裏作（冬期の露地野菜）の主要な品目のひとつとしてほうれん草を位置付け、関係機関と連携して高品質・安定生産を支援する。

(東予地方局産業振興課 産地育成室)



### ○西予の青年農業者がミルクとシルクの町で女性と交流！

西予青年農業者連絡協議会は8月26日、西予市野村町のほわいとファームやシルク博物館などで「西予サマ婚2017」を開催し、伊予市や八幡浜市から参加した女性6人を含む19人が、バターづくりや藍染めなどの体験交流を行った。

シルク博物館では蚕の飼い方から糸の紡ぎ方、製品ができるまでについて説明を受けた後、シルクの糸を使ったコースター作り・藍染めを体験した。

その後、西予市産牛肉を使ったバーベキューで交流しながら、西予市の農業への理解を深めた。また、最後に西予市産の柑橘ジュースを男性から女性にプレゼントした。

参加した女性からは「西予らしい体験ができ、楽しかった」といった感想があり、交流会を企画した協議会のメンバーは手ごたえを感じていた。

西予農業指導班は今後も、関係機関と連携しながら青年農業者の意欲的な組織活動を支援する。



**西予サマ婚：西予青年農業者連絡協議会が主催。愛媛県内の女性に、農業や西予市の魅力を知ってもらい、同協議会員と女性が交流を深めることを目的に毎年開催している。**

(西予農業指導班)

### ○児童らが自然の中での体験を満喫！「きちみんか森の国」

森の国グリーンツーリズムクラブは8月26～27日、松野町でNPO法人「都会と田舎を結ぶ食育ネット」と協力し、「きちみんか森の国」を開催した。

これは、子どもたちに豊かな自然の中での農林漁業体験や新鮮な農林水産物を味わってもらうために実施したもので、松野町での開催は13回目。

当日は横浜や松山市の児童と大学生ら40人のほか、同町の小学生2人も参加。クラブ員による稲刈り体験指導や松野町生活研究協議会による「おかあさんレストラン」での夕食提供、町内外の農林漁家民宿への宿泊、川遊び体験などを行った。

稲刈り体験では、児童が競うように鎌で稲を刈り取ったり、コンバインと手刈りによる速度の違いに驚いたりしていた。また、お別れ式では「自然の中での民宿での活動や稲刈り体験など楽しいことがたくさんあった」と満足そうに話した。



(鬼北農業指導班)

### ○明浜柑橘生産者協議会加工部会がみかんジュースの新商品を開発

JAひがしうわ明浜柑橘生産者協議会加工部会（部会長：稲葉一也氏）は、明浜産温州みかんを使用したストレートジュースの新商品を開発した。

部会では、昨年度から小型びんタイプのジュースの開発を計画。県6次産業化チャレンジ支援事業を活用して開発を進めた。

このジュースは、原料となるみかんの糖度を明浜選果場の光センサー選果機で測定し、糖度12度以上のものだけを使用。厳選素材によるブレのない濃厚かつ贅沢な味わいが特長である。

商品名は「アケハマ12°（12ど）」と命名。飲みやすさや持ちやすさ、持ち帰りの利便性などを考慮して、飲みきりサイズの200mlとした。また、「手塩にかけて育てたみかんを大事に届ける」という思いを込めて、商品名と明浜の地図がデザインされた包装紙で包むこだわりよう。

既存の720mlサイズのみかんジュースとポンカンジュースも統一デザインでリニューアルし、ギフトやお土産用を中心に販売する計画である。

西予農業指導班では、引き続き販路情報の提供や営業活動を支援する。



新開発の 200ml サイズ



200ml と 720ml のギフトボックス

(西予農業指導班)